



【桐の植栽で地域の新たな繋がりを
つくる】

赤谷プロジェクトは、地域の新たな繋がりをつくる桐の植栽を行っています。

赤谷プロジェクト地域づくりワーキンググループでは、赤谷プロジェクトの目標の一つである持続的な地域づくりのための取組として、みなかみ町内にある群馬県唯一の桐筆業者「桐匠根津」との連携により昨年度から桐の植栽を検討してきました。



福島県三島町訪問時の様子



仮植作業

近い将来、みなかみ町で生産された桐材が地元の木工業者に活用されるという繋がりを夢見て、昨年12月には、みなかみ町役場や地域協議会メンバーなどのワーキンググループ関係者が視察で訪問した桐の有名産地である福島県大沼郡三島町から、2年生と3年生の桐の苗を合わせて20本提供していただき、冬の間、一旦仮植しておいた苗を、雪解け後の4月に試験的にいきもの村に植栽することにしました。

4月7日、赤谷の日の2日目に、赤谷プロジェクトを支援していただいている(株)ラッシュジャパンからも7名のサポーターが参加して、



芽掻き作業

施業管理については、当面の管理

(公財) 日本自然保護協会、赤谷プロジェクト地域協議会、赤谷センター職員ら総勢20名により県道に隣接するいきもの村の旧苗畑跡地に桐を植栽しました。

また、5月の赤谷の日には「芽掻き」と呼ばれる作業を行いました。この作業は、桐が真っ直ぐ育つよう伸びてきた新芽のうち、3年生苗は樹高2m以下の芽はすべて掻き取り、2年生の苗はすべての芽を掻き取ります。なお、新芽が出てきたら繰り返し行う必要があります。

桐は他の木と比べてかなり成長が早いので、最初から植え付けの間隔を約5mと広めにしています。そこで、いきもの村に自生しているクロマジなど、森の恵として利用できる植物を隙間に植えたりして増やすことも計画しています。



植付作業

を定めた計画書を策定し、草刈りや芽掻きなどの作業は、赤谷の日にサポーターと一緒に、それ以外は地域協議会のメンバーが実施しています。桐は5年生で花が咲くといわれています。早ければ再来年の春には花見ができるのではと楽しみにしているところです。



植栽地の様子